



## プレゼンテーションを行う北島社長

ラーや自動車メーカー、行政機関、大学などが一堂に会する国際会議で、自動車の環境問題やリサイクル産業に関する情報交換を行うことを目的としている。現在、日本、中国、韓国、マレーシア、モンゴル、コスタリカ、オーストラリア、フィリピンのリサイクル関係者が参加している。

JARAはAAEFの立ち上げ時から参画している。北島社長は「海外でのネームバリューが格段に高まり、信用力の醸成に結び付いている」とAAEFへの参加意義を強調する。

10回目を迎えた今回のテーマは「End-of-Life Vehicle Recycling, Present & Future」。20日に実施した本会議にはヒュンダイ、キア、ルノーサムスン、韓国GMといった自動車メーカー、廃車処理などを手がける韓国のリサイクル事業者、大学教授など約120人が参加した。

JARAの北島社長は「Introduction of JARA activity (JARA活動の紹介)」と題して講演を行った。JARAのリサイクル部品流通ネットワークシステムや品質保証、人材教育体制、豊田通商が親会社であることの実績、リサイクル部品による二酸化炭素(CO2)削減効果を見える化した「グリーンポイント」などを紹介した。

東北大学の劉教授は、日本のリサイクル率の推移や中古車輸出の状況などを解説。ハイブリッドカー(HV)など次世代自動車の普及状況と予測、次世代自動車を巡る世界各国の取り組みなどを踏まえた上で、日本におけるニッケル水素電池やリチウムイオン電池のリサイクル状況などを紹介した。また、オーストラリアから参加したデビット・ローラン氏は、これまでの10年の積み重ねをプラットフォームにして人材教育やシステムなどAAEFメンバーで共有することを提案。自動車リサイクル事業に取り組む各国事業者の連携強化を訴えた。

本会議に先立ち18、19日に行われた産業視察では、自動車部品や材料、エレクトロニクス、アクセサリー、検査機器など韓国の自動車産業を支える企業が多数出展した「韓国自動車産業展」、ヒュンダイ自動車のブランド発信拠点「HYUNDAI MOTOR STUDIO GOYANG」を見学。参加者は韓国の自動車産業に関する見識を広げた。

(日刊自動車新聞11月2日)

## 豊田自動織機、バックウインドー樹脂化で4割軽量化

豊田自動織機は、ガラス製と比べて重量が4割軽い樹脂製バックウインドーの製造技術を確認した。射出成型による一体成型で曲面などの複雑な形状にも対応し、デザイン性を高めながら大幅な軽量化に貢献する。樹脂表面のコーティングを工夫することで、窓表面の傷つきや、直射日光の影響による変色を防ぎ、ドライバーが運転視野を十分に確保できるとしている。まず上級モデルでの採用を目指して提案活動を本格化する。

同社はこれまで、トヨタ自動車の「プリウスα(アルファ)」向けパノラマルーフや「86 GRMN」のクォーターウインドーで樹脂製品の採用実績がある。車の燃費向上に貢献する自動車部品の軽量化ニーズに対応するため、これまで培った樹脂成型技術を生かして手がける事業範囲を広げる方針。

実用化を目指す樹脂製バックウインドーは、耐久性の高いポリカーボネートを使用する。ワイパーの稼働などによる傷つきや、直射日光の影響による変色を防ぐために、ガラス膜系のコーティングを樹脂の上に施す。これによって傷つき耐性を高め、運転視界の規格にも適合する。

開発品は、バックウインドーやクォーターウインドーを一体化したもので、重量は、約10キログラムと大幅に軽量化した。ガラスでは表現が難しい反りや緩やかなカーブといった曲面形状にも対応し、車の新たなスタイリングの実現にもつながる。

京都大学発の電気自動車(EV)ベンチャーのGLM(京都市左京区)と帝人が共同開発した樹脂製フロントウインドーを、GLMの「トミーカイラZZ」に搭載するなど、自動車窓を樹脂化する動きが本格化する動きがある。豊田自動織機ではバックウインドーやクォーターウインドーを一体化できることを強みに、早期実用化を目指す。(日刊自動車新聞11月21日)



## JARA、アジア自動車環境フォーラムで自動車リサイクルの取り組みプレゼン

JARA(日本自動車リサイクリーズ・アライアンス、北島宗尚社長、東京都中央区)は、18~20日に韓国・ソウル市で行われた「第10回アジア自動車環境フォーラム(AAEF)」に出席し、北島社長がJARAの取り組みについてプレゼンテーションを行った。また同会議には東北大学の劉庭秀教授も参加。日本のリサイクル業界の現状や課題について講演した。出席者からは今後の連携強化についての提案も行われるなど、自動車リサイクルを巡る各国の協力関係の深化を示す会議となった。

AAEFは2008年に韓国・ソウルで初めて開催された。アジア各国の自動車リサイク

### CO2削減数値(JARAシステム)

リユースパーツ使用によるCO2削減効果参考値  
平成29年10月

2,428t

※一般、中・大型含む車を修理する際、新品部品を使用して修理する場合に出るCO2排出量とリサイクル部品を使用して修理する場合のCO2排出量の差がCO2削減数値になります。

一般社団法人日本自動車リサイクル部品協議会と早稲田大学環境総合研究センターがLCA(ライフ・サイクル・アセスメント)の考え方にに基づき共同開発した「グリーンポイントシステム」より参照。



自動車リサイクル分野への貢献や精力的な事業活動を振り返るとともに、別れを惜しんだ。

偲ぶ会では、導師による読経に次いで、豊田通商専務執行役員・金属本部長の村田稔氏、NPO JARA理事長の高橋敏氏ら業界関係者が弔辞を述べた。その後、参列者全員が献花を行った。

## 土門五郎さんを偲ぶ会 自動車業界内外から 500人参列

病气療養中の9月18日に急逝した土門五郎大晃商事会長（享年73歳）の「偲ぶ会」が秋田市の秋田キャッスルホテルで執り行われた。自動車業界や地域経済界から約500人が参列、故人の自

故・土門五郎氏は、1945年生まれで山形県遊佐町出身。63年三光オート（東京）入社、68年日産プリンス秋田入社、75年土門商店を創業、93年大晃商事設立。2003年スーパーライン東北取締役、05年（株）JARA監査役、09年（株）JARA会長に就任。また、秋田県再生資源商工組合の理事や宮城県東日本大震災被災車両回収処理支援対策の本部長を務めるなど、業界や地域の支援、発展にも尽力した。

（日刊自動車新聞10月31日）

## トヨタ自動車とあいおいニッセイ同和損害保険、テレマ保険開発

トヨタ自動車とあいおいニッセイ同和損害保険は8日、トヨタのコネクテッドカーを対象に、DCM（車載通信機）で取得した走行データに基づき、安全運転の度合いに応じて保険料を割り引く「挙動反映型テレマティクス保険」を共同で開発したと発表した。保険料を構成する「基本保険料」と「運転分保険料」のうち、後者について最大80%を割り引く。走行距離や車種などの条件によって異なるが、保険料全体に対する割引率は最大で1～2割程度になると見られる。2018年1月からレクサスの新車全車（LS、HSを除く）を対象に発売し、トヨタ車は同年夏発売の「クラウン」から順次拡大する。

テレマティクス保険は保険各社から販売されているが、後付けの通信機や、顧客からの申告なしに安全運転の度合いを保険料

に反映する自動車保険は国内で初めて。

トヨタは全車へのDCM搭載計画を表明している。DCMによって、スピード、アクセル、ブレーキの度合いを把握し、データセンターに通信する。毎月の安全運転の点数（100点満点）をスマートフォンアプリを介して契約者に伝え、この点数に応じて月々の運転分保険料を確定する。契約時に確定するのは基本保険料のみで、運転分保険料については契約満了時に清算する。

あいおいニッセイ同和は15年3月に英国のテレマティクス保険大手BIG社を買収。そのノウハウを活用し、今回の保険を開発した。（日刊自動車新聞11月9日）

## 豊田通商とネクスティ、車載ソフト開発4社と資本提携

豊田通商と子会社のネクスティ エレクトロニクス（東京都港区）は、国内の車載ソフトウェア開発4社と資本・業務提携を結んだと発表した。ネクスティは自動運転やコネクテッドカーのソフトウェア開発体制を強化するため、専門の技術者を現状の900人から1～2年以内に2500人に増やす計画。今回の提携により技術者150人がグループに加わるといふ。

資本業務提携したのはアックス（京都市中京区）、インテグレーションテクノロジー（埼玉県和光市）、ソルクシーズ、未来技術研究所（名古屋市中区）。

豊田通商、ネクスティのソルクシーズに対する投資額は7657万円で、出資比率は1%。ほかは開示していないが、全体で数億円規模の投資と見られる。

ネクスティは海外子会社、国内外の100以上のパートナー企業とソフトウェア開発で協業している。今回提携した4社はコパートナー会社に位置づける。

（日刊自動車新聞11月22日）

## 豊田メタル、使用済み車の供養行う 感謝と交通安全を祈念

豊田メタル（村田稔社長、愛知県半田市）は9日、使用済み車両への謝意と交通安全を祈念する「第40回廃車供養」を実施した。村田社長のほか、トヨタ自動車や愛知製鋼、豊田通商、愛知県トヨタ系ディーラーなどの役員、半田市の榊原純夫市長らも出席し、産業発展に寄与した車への感謝を示した。

住吉神社宮司司祭により式を行った。参列者らによる玉串奉てんののち、回収したお守りなどを使用済み車2台の前で焼納し、厳粛に式を執り行った。同社は年間13万台・累計720万台の解体車両に対し、感謝の意味を込めて毎年式を執り行っている。

村田社長は「廃車の中には交通事故に関わった車も含まれる。交通安全を切に願い、祈願させていただいた」と挨拶したほか、今後の取り組み課題を出席者らに話した。

（日刊自動車新聞11月21日）



「ありがとう」を  
たくさんもらえる会社へ

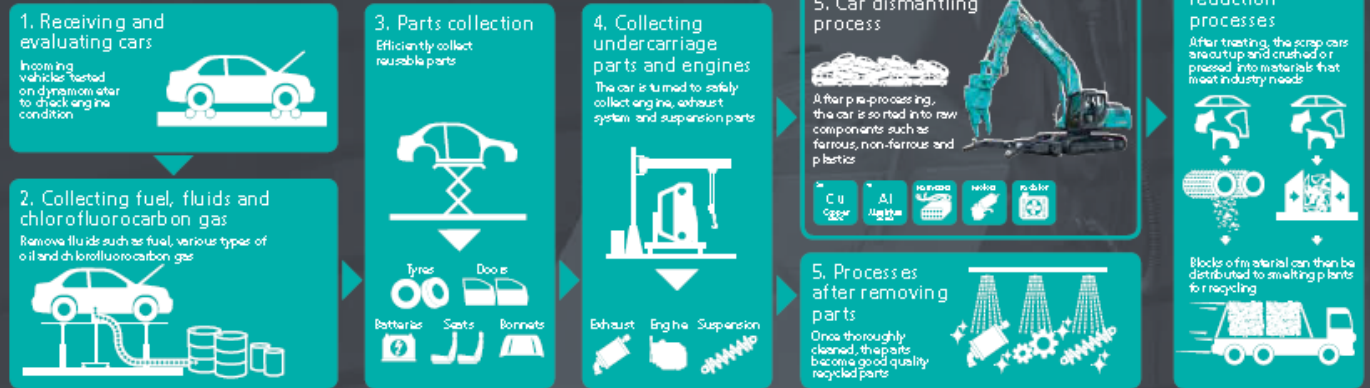
http://www.jara.co.jp/





## Dismantling process flow chart

How the Car Dismantling machine works



## The Evolution of car dismantling industry by Kobelco

Four times\* the vehicle dismantling capability compared with hand dismantling.

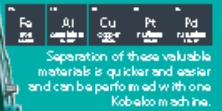
\*In one day (Kobelco test figure)

15 vehicles > One operative working by hand.

60 vehicles > One operative in a Kobelco Car Dismantling machine.



Improved recovery rate of rare earth metals



### SK210D



### SK210D



### SK 135SRD



コベルコ建機株式会社  
www.kobelco-kenki.co.jp/

For Japan

成都神鋼工程机械(集团)有限公司  
www.kobelco-jianji.com/

For China

(주)삼정건설기계  
www.samjung-kenki.co.kr/

For Korea

KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY U.S.A. INC.  
www.kobelco-usa.com/

For North America

KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY AUSTRALIA PTY LTD  
www.kobelco.com.au/

For Australia

KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY EUROPE B.V.  
www.kobelco-europe.com/

For Europe

FAIR FRIEND ENTERPRISE CO.,LTD.  
www.ffg-tw.com/

For Taiwan